

(別紙様式)

令和7年度学校評価の実施状況等調査

学校名	県立コザ高等学校定時制課程
記載者名	宮城 広行

1 自己評価を実施した人数

	校長	教頭	事務長	教諭	事務	その他	計
実施人数	1	1	1	14	1		18

※その他 ()

2 学校関係者評価を実施した人数

	学校評議員	PTA役員	その他				計
実施人数	4	0	0				4

※その他 ()

3 外部アンケート等を実施した人数

	保護者	生徒	その他				計
実施人数	75	82	0				157

※その他 ()

4 学校評価結果の公表方法等(該当項目に○、複数回答可)

自己評価	①ホームページ	②学校便り	③保護者への説明会	④その他(PTA総会での説明)
学校関係者評価	①ホームページ	②学校便り	③保護者への説明会	④その他(PTA総会での説明)

5 令和6年度の学校評価を踏まえ、令和7年度改善した点 (いじめ問題に関すること等)

・職員評価において環境美化が改善し、生徒の美化意識が向上している。
・生徒評価において、教育目標と人権に関する項目が向上している。入学後の学校生活の満足感と充実感が高まっている。また、職員の言動が人権に配慮したのと感じる生徒が増えている。
・いじめに関する質問項目についても”良い評価””維持傾向”となっており、今後とも悪化させず継続を図る必要がある。

6 令和7年度の学校評価で明らかになった課題

・保護者評価において、学校の取組が”分からない”と回答する保護者が多くいた。学校の取組の評価を依頼する以上、周知は大前提であるため、より周知を行う必要がある。
・特別活動(部活動)が活性化していない旨の課題が生徒からも挙げられている。部活加入を促し部活動を充実させる働きが必要である。

7 令和6年度の学校評価を活かした令和7年度の改善点

①基本的な生活習慣の確立と中途退学対策の課題が挙げられている。次年度は中退加配が復活したが、引き続き全職員で取り組む必要がある。
②”いじめ”や”人権”に関しては概ね良い評価となっている。日々の声かけやいじめ事案への早期対応は評価されているため、今後とも続けていく必要がある。
⑤日々の学校の取組等を保護者へ伝える手立て(ツール)のより積極的な活用が必要である。